

有機農業で繋ぐ地域の輪

秋田県立湯沢翔北高等学校（メンバー 伊藤優空、泉響妃、斎藤美空、佐々木絵芽央、高橋悠彩）

〈目的〉

2050年問題の1つである「化学肥料の使用量30%低減」と湯沢市の高齢化により農家の担い手不足が進んでいる点に注目しました。私達が環境に優しい有機農業を行うことで、有機の認知度向上と地域の活性化のきっかけになり人手不足解消に繋がるのではないかと考えています。そこで、地域の農家さんに協力してもらい、小学生と一緒に有機農業に取り組むことで、化学肥料を使わずに作物を育てる自然に優しい農業を学んでもらい、次世代を担う若者に継承していくことを目的としました。



↓10月に行った収穫作業

5月に行った苗植え→

〈取組と成果〉

私達は、5月に地域の農家さんに協力してもらい、小学生とさつまいもを3000本とかぼちゃ30本を植えました。また、7月から9月にかけては除草などの畑の整備を行いました。そして、10月に「IMO-1グランプリ」という企画を実践し、ゲーム形式で地域の小学生と収穫活動をしました。どのようにしたら小学生に農業の楽しさと大変さを実感してもらえるかを考え、企画しました。

また、有機農業をより身近に感じてもらうために収穫した野菜を使って地元の菓子製造会社である「株式会社くらた」さんに協力してもらい商品開発に取り組みました。1から自分達で商品を考え、パッケージデザインから製品製造にも参加させていただきました。より多くの若者や他の地域の方々に知ってもらうためにSNSを活用して商品開発ファンディング班の取り組みを発信しています。

〈今後の取組〉

10月に行った商品製造のお手伝い→

今回の経験を通じて、有機農業についての関心が深まり、より農業を身近に感じることができました。SNSやメディアを通じて私達の活動をたくさんの方々に知ってもらうことで2050年問題の解決に近くきっかけになったと思います。また、小学生と一緒に体験することで、有機農業の大変さと楽しさを実感し、今後の担い手となってもらえたらと思っています。

有機農業をより広めるために、有機農業に関するポスターを作って掲載したり、自分達が今回行ったような活動により多くの人に参加してくれるように一時的なものにせず持続的なものにしていきたいです。そのためにも、SNSやポスターによる広報活動を今後も継続して行い、地域の発表会に積極的に参加していきたいと思っています。今後は、考案した商品の販売が予定されており、我々の活動の報告と一緒に行うことでより一層有機農業の注目が集まると期待しています。

